

児童養護施設の子どもに英才教育を！ ～“格差”から“活躍”へ。夢・希望発信プラン～

平成28年度 政策創造員会議
ワーキンググループ2

1. 研究概要

子どもの貧困が問題とされる中、子どもの貧困ピラミッドの最上位にあたるともいわれている児童養護施設（以下、「施設」という。）の子どもに焦点を当て、「英才教育」(*)や経済的支援を行うなど、施設の子子どもが自らの夢を実現し、県民に夢と希望を与えられる人材となるための支援策について研究を行う。

※英才教育とは、一般的には「才能の優れた児童・生徒に対して、その能力を伸ばすために行う特別な教育」を表すが、ここでは、「すべての子どもは無限の可能性を持っており、その可能性を最大限に引き出す教育」として扱う。

2-1. 発見した問題点 ～子どもの貧困～

既存の調査・研究から発見した問題点は、次の①から⑦のとおり。

- ① 日本の子どもの貧困率は16.3%と、子どもの6人に1人が平均的な生活水準の半分に満たない状況にあり、子どもの貧困は重要な社会問題である。

「平成25年国民生活基礎調査」(厚生労働省)

- ② 子どもの貧困に該当する人数は、全国で約328万人とされており、このうち施設の子どもは約3万人(全体の約1%)となる。施設の子どもは、貧困のみならず、保護者の育児能力の欠如や児童虐待などが同時に発生している可能性があり、「子どもの貧困ピラミッド」の最上位に位置している。

「世界の児童と母性(平成27年10月1日発行):『子どもの貧困とは何か』 首都大学東京都市教養学部 教授 阿部 彩」

※三重県内施設(12カ所)で生活する子どもの人数:418名(平成26年12月1日現在)

「三重県家庭的養護推進計画」

- ③ 子どもの貧困の放置による経済的影響の推計を実施したところ、15歳の子ども1学年分について、貧困を放置した場合、生涯所得の減少が約2.9兆円に達し、また税・社会保障の負担は1.1兆円減少し、社会的損失が増加する。

「子どもの貧困の社会的損失推計レポート」

(日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

2-2-1. 発見した問題点 ～進学・将来設計～

- ④ 施設の子どもは、生活保護世帯、ひとり親家庭の子どもと比べて、高校卒業後就職の割合が最も高く、大学等進学の割合は最も低い。

	全世帯	生活保護世帯	児童養護施設	ひとり親家庭
中学校卒業後就職率	0.3%	2.5%	2.1%	0.8%
高等学校等進学率	98.6%	90.8%	96.6%	93.9%
高校卒業後就職率	17.3%	46.1%	69.8%	33.0%
大学等進学率 (専修学校含む)	73.3%	32.9%	22.6%	41.6%

「子供の貧困対策に関する大綱」(内閣府)

- ⑤ 施設の子どもが大学進学するために、必要な支援・課題として、学費や生活費等に関する内容が全体の42.0%を占めている調査結果もあり、**経済面での不安から進学をあきらめてしまう**ケースが多い。

「全国児童養護施設協議会調査」

2-2-2. 発見した問題点 ～進学・将来設計～

- ⑥ 施設退所者のうち、大学等に進学した子どもの9%が1年以内に中退しており、**4年以内に中退する割合は21%**にも上る。

「全国児童養護施設調査2015」

なお、全国の中退者の割合は2.65%であることから、施設退所者の中退する割合は高いといえる。

「文部科学省調査平成26年度調査」

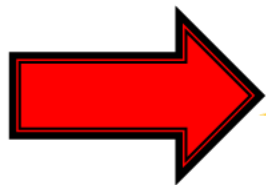
- ⑦ 最終学歴によって収入に差が生じており、特に男性における大学・大学院卒の月収が高くなっている。

学歴	男性	女性
高等学校卒	288.2千円	207.7千円
高専・短大卒	308.8千円	252.5千円
大学・大学院卒	402.5千円	287.8千円

「平成27年 賃金構造基本統計調査」(厚生労働省)

3. 課題設定

- ① 施設の子どもに対して、未来の多様な選択肢を示し、夢を実現するための教育環境を整える必要がある。(県民の憧れの存在となる人材を育成する)
- ② 子どもがチャレンジする気持ちを絶やさないために、経済面での不安を取り除く必要がある。



三重県が全国に先駆けて取り組む！

「子どもの貧困ピラミッド」の最上位に位置しているともいわれている施設の子どもを支援することにより、他の貧困状況にある子どもへの支援についてヒントを得られることも期待できる。

4. 研究目標

施設における「英才教育」

施設の子どもが自らの夢を持ち、実現するための「英才教育」プランを示す。(学業、スポーツ、芸術等)

経済的支援

施設の子どもが大学等へ進学するにあたって、大きな課題となる経済面(学費、生活費、住居など)について、解決に向けた方策を検討する。

5-1. これまでの研究結果


～施設での「英才教育」～

肯定的意見

- ・貧困家庭の子どもを対象として、幼児教育プログラムを実施し、その後40歳まで追跡調査。その結果、40歳時点において、教育、経済、犯罪抑止、健康、家庭、子どもの各カテゴリにおいて、プログラムを実施しなかった子どもよりも良い状態にあった。(ペリー就学前教育計画)
- ・一般的に、施設の子どもの能力を平均以上に引き上げる教育はされていないことが多い。
(県外NPO法人)
- ・夢を実現させ、憧れの存在となった先輩がいることで、子どもの意欲向上に繋がり、好循環が生まれる。(県外NPO法人)

否定的意見

- ・もともと大学進学は念頭になく、高校進学がやっとの子どもがほとんどである。(県内施設)
- ・生活支援に追われ、すでに職員の負担が大きい状況である。(県内施設)
- ・発達障がい、知的障がい等の子どもの入所が増加傾向(全体の約28.5%)にある(県内施設)



・さまざまな背景を持った子どもが入所するため、心のケアなども行いながら「英才教育」を実施する。なお実施にあたっては職員の負担を考慮する。

・「英才教育」により、県民の憧れの存在となる人材を育成し、その子どもが社会で活躍することで、他の子どもの意欲向上、施設への評価向上につながり、好循環が生まれる。

5-2. これまでの研究結果 ～経済的支援～

現状

- ・就職、進学のため退所する児童が住居の賃貸借契約をする際に、施設長が保証人にならざるを得ない場合がある。(県内施設)
- ・親に頼ることができず、生活費を自ら稼がなければならないことから、アルバイトに追われて学業などがおろそかになりがちである。(県内施設)

課題

- ・企業からの支援(CSR)は、例年あるわけではなく、突然途切れることもあり、安定的ではない。(県外NPO法人)



- ・単なる資金的な支援だけに限らず、住居の提供など、子どもが安定的に生活できる環境を整備することが必要である。
- ・継続的な支援となるよう、企業や県民と連携して取組を進めることも重要である。

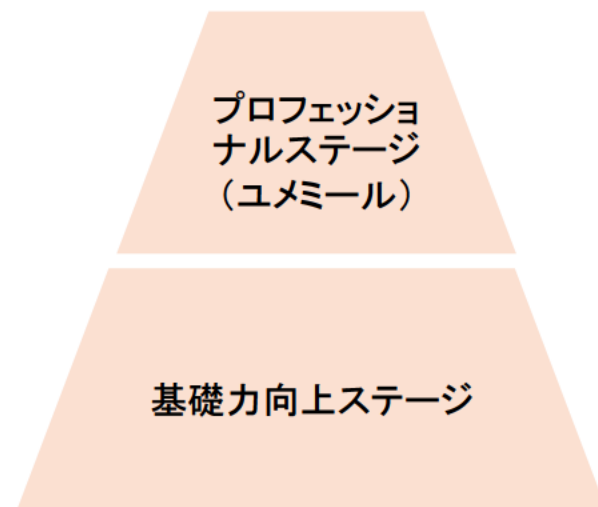
5-3-1.これまでの研究成果

～「英才教育」プラン～

子どもの夢はさまざまであることから、学習面に限らず、スポーツや芸術にも幅を広げ、「英才教育」を実施する。

具体的には、次の2段階で取り組む。

- ①「基礎力向上ステージ」
- ②「プロフェッショナルステージ」



5-3-2.これまでの研究成果

～「英才教育」プラン～

①基礎力向上ステージ

子どもの特性・背景・年代等に応じた教育を行う。
さまざまな理由により入所した子どもの適性を見極め、
子どもが夢を描くために必要な対策を行う。

「ライフプランニング」

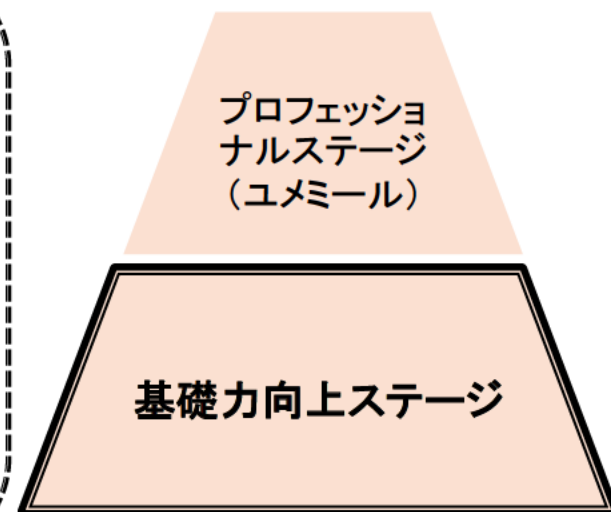
- ・長期的視野に立った人生設計を行える
能力の向上

「夏休みなどにおける特別プログラム」

- ・旅行や各分野の第一線で活躍する方々
との交流など長期休みを生かした体験

「回復プログラム」

- ・虐待等でダメージを負った子どもへの精
神面のケア



5-3-3.これまでの研究成果

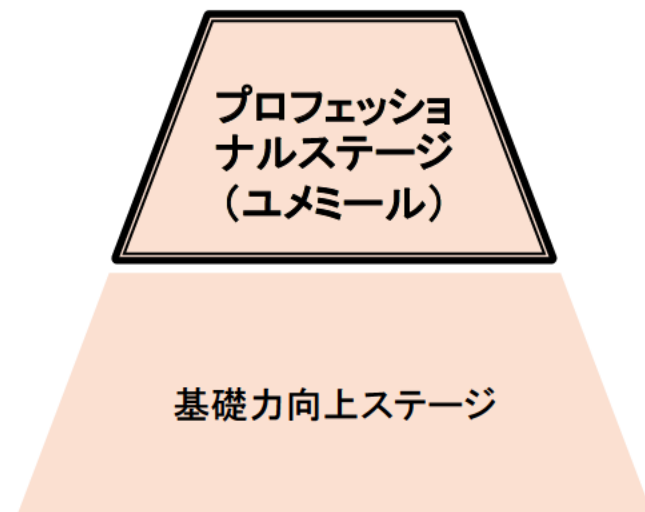
～「英才教育」プラン～

②プロフェッショナルステージ

県内施設において基礎力向上ステージによる教育を受けた子どものうち、一定の能力とやる気を持った中学生以上の子どもを対象として、各分野の一流をめざした教育を行う。

「ユメミール(仮称)」

- ・一定の能力とやる気を持った子どもが一流をめざし、集中して学業、スポーツ、芸術に取り組むための施設



5-4-1.これまでの研究結果 ～経済的支援～

奨学金支援プログラム「カナエール」(*)を参考に、三重県版カナエールを創設する。

また、身元保証人の新たな確保策や空き家バンクの活用など、生活面を支援する仕組みを検討する。

※奨学金支援プログラム「カナエール」

◎カナエールとは、施設からの大学等への進学を応援する奨学金支援プログラムであり、NPO法人ブリッジフォースマイルが実施している。

◎夢や進学への思いを語るスピーチコンテストの出場を条件として、寄付金とコンテストのチケット販売金を原資に、施設の子どもに対して返済不要の奨学金を支給している。

◎子どもがスピーチすることにより、進学してからの「意欲」と「資金」の両面をサポートすることを目的としている。

5-4-2.これまでの研究成果 ～経済的支援～

三重県版カナエール
子どもの夢を叶えるための
奨学金プログラム
(個人部門・施設部門)

寄付つき商品の開発
施設と企業が連携し、施設
への理解、資金等呼び込
む事業を展開

身元保証人の確保
身元保証人の
新たな確保策を検討

空き家バンクの活用
施設出身者に格安で
空き家を貸し出す

5-5. これまでの研究成果 ～支援イメージ～

取組

効果

めざす姿

英才教育

プロフェッショナルステージ
(ユメミール)

基礎力向上ステージ

経済支援

三重県版カナエール

企業との連携促進

住居環境支援

能力向上

環境整備

希望

活躍

意欲
向上

英才教育
経済的支援

6.最終報告に向けた課題解決のための取組

◎「英才教育」プランのブラッシュアップ

- ・途中入所、途中退所児童への「英才教育」プランの検討
- ・「英才教育」の担い手の検討
- ・ニーズ調査 等

◎「経済的支援」の仕組みに関する検討

◎退所児童への支援、フォローアップのあり方の検討

◎施設以外の子どもに対する支援の広げ方の検討